

令和2年 年頭のご挨拶

森田 弘昭

一般社団法人
日本非開削技術協会会長



明けましておめでとうございます。

新しい年である令和2年が始まりました。会員の皆様におかれてはそれぞれにあらたな目標と抱負をもって新年を迎えられたことと思います。まずは会員の皆様と（一社）日本非開削技術協会が共に穏やかな新年を迎えることができたことに感謝したいと思います。

年頭にあたり昨年の当協会の活動を振り返ってみたいと思います。

まず、総括的に1年を俯瞰してみると、インフラの建設からメンテナンスへのシフトを迎えつつある中で自治体の代わりに全面的にインフラのメンテナンスを担おうとするPFIや包括民間委託と呼ばれる取り組みが活発になってきたように思います。このような背景を受けて昨年はプラントメーカーやゼネコンの入会がありました。

個別の活動を国内から見てみます。

昨年2月に、東京と仙台で非開削技術講習会を（公社）日本下水道管路管理業協会と（一社）日本管路更生工法品質確保協会の共催で実施しました。当協会が発行した「非開削地下探査技術適用の手引き（案）」及び「地下管渠工事の社会的費用—算定の手引き—（案）」、HDD工法、管路更生工法について説明を行いました。

5月には2年ぶりの現場見学会を実施しました。工事内容は、船橋市発注の泥濃式推進工法で、呼び径2200、延長953m、鉄道施設と300mmの近接施工です。

6月の総会・懇親会では200名を超える来賓と会員の方々にお集まりいただき盛会となりました。なお、令和元年は役員の改選時期で、副会長職が、楠田副会長から九州大学の島田先生に交代になり楠田副会長には顧問に就任していただきました。

7月には「非開削技術分野に向けてのi-Construction」をテーマに第26回非開削技術講演会を内幸町ホール（東京・千代田区）で開催しました。本講演会では11

の協賛企業にご支援を賜りこの場をお借りしてお礼申し上げます。

9月には静岡県下水道技術研究会からの要請で管路の防食をテーマに講師を派遣しました。更に、高松市で開催された土木学会全国大会において「地下管渠工事の社会的費用—算定の手引き—（案）」を発表しました。

10月には、2019年度第2回非開削技術見学会（地中障害物撤去推進工法施工）を都内で実施しました。

11月には、新宿区立角筈区民ホール（東京・新宿区）で第30回非開削技術研究発表会を開催しました。13件の発表と2件の海外発表が行われました。

次に国際活動を振り返ります。

9月には、昨年に引き続きシカゴで開催された第92回WEF年次総会での日本人発表の支援を行っています。

10月には、フィレンツェで開催されたISTT総会に出席しました。2020年はマレーシアで開催されることが決まりました。総会に引き続き、スイスの推力制御システムであるJackcontrol社を訪問いたしました。

11月には、中国工程院土木、水利・建筑工程学部、中国土木工程学会、中国水利学会等の機関からの要請で講師を派遣しています。

12月には、JSTTの国際サービスの一環として海外研修の充実を図るためにGCUSベトナム委員会と連携して試行的にベトナム研修を実施しました。研修内容及び結果を分析し会員の皆様のニーズに合うか検証いたします。

昨年の活動を振り返りますと新しい風が新しい風を呼び寄せているのではないかと感じます。当協会は、この新しい風を大切にして会員の皆様のお役に立つ活動を進めていくことを心に念じ取り組んでいく所存です。

新しい年が会員の皆様にとって実りある年となりますように祈念して年頭のご挨拶といたします。